

美術の冒険 国立国際美術館コレクション展

セザンヌ，ピカソから草間彌生，奈良美智まで

2014年8月9日(土)～9月28日(日)

1 展覧会名

美術の冒険 国立国際美術館コレクション展

2 主催 茨城県近代美術館／国立国際美術館

協賛 常陽銀行

後援 水戸市，朝日新聞水戸総局，茨城新聞社，株式会社 茨城放送，
NHK水戸放送局，産経新聞水戸支局，東京新聞水戸支局，
日本経済新聞水戸支局，毎日新聞水戸支局，読売新聞水戸支局

3 会期 2014年8月9日(土)～9月28日(日) 44日間

休館日：毎週月曜日 ※ただし9月15日(月・祝)は開館，翌16日(火)休館

開館時間：午前9時30分～午後5時(入場は午後4時30分まで)

4 入場料 一般980(850)円，高大生720(600)円，小中生360(240)円

※()内は20名以上の団体料金

※学校の夏休み期間を除く土曜日は高校生以下入場無料

※満70歳以上の方及び身体障害者手帳等をご持参の方は無料

※茨城県立の美術館(近代美術館，天心記念五浦美術館，陶芸美術館)主催のすべての展覧会
で1年間に何回でもご利用いただける共通年間パスポート(一般3,090円，高大生2,060円，小中生1,030円)を各美術館にて販売中

5 展覧会概要

この100年余りの美術は、斬新で個性的な表現にあふれています。常識にとらわれることなく独自の表現を模索し、未知なる世界へと道を拓き続けてきた芸術家たちの活動は、果敢な冒険の連続であったといえるでしょう。アーティストは常識の壁を飛び越え、通常は結び付かないようなものを結び付け、世界が広大で多様なものであることを気づかせてくれます。彼らは次々と新しいことに挑む冒険者なのです。

本展では国立国際美術館(大阪)の所蔵作品の中から、セザンヌ、ピカソらの作品を導入として、戦後から現代までの61作家83作品により、美術の多様な広がりをご紹介します。

第1章「現代アートの起源と『モダニズム』」では、19世紀末のセザンヌ以降の近代美術の歩みと、戦後の美術の動向を、第2章「美術のフレームを超えて」では、80年代以降、美術の表現がいかに多様になったかをご紹介します。

20世紀以降、現在に至るまで、美術の様々な表現に親しんでいただける機会として、多くの方にご覧いただければ幸いです。

【広報文1】

国立国際美術館(大阪府)の所蔵作品の中からセザンヌ、ピカソらの作品を導入として、草間彌生、森村泰昌、奈良美智といった現在活躍中の日本人作家まで、83点を選りすぐり、美術の多様な広がりをご紹介します。 (約100字)

【広報文2】

この100年余りの美術は、斬新で個性的な表現にあふれています。常識にとらわれることなく独自の表現を模索し、未知なる世界へと道を拓き続けてきた芸術家たちの活動は、冒

険の連続であったといえるでしょう。

第1章「現代アートの起源と『モダニズム』」では、セザンヌ以降の近代美術の歩みと戦後の美術の動向を、第2章「美術のフレームを超えて」では、80年代以降、美術の表現がいかに多様になったかをご紹介します。 (約200字)

6 主な出品作品及び出品点数

作品 83 点, 作家 61 名 (うち海外の作家 35 名, 日本人作家 26 名)

第1章 現代アートの起源と「モダニズム」

19世紀までの美術では、神話や歴史、風景や静物など、特定の主題を再現的に表現するのが普通でした。しかし19世紀末にセザンヌが主題よりも色彩や筆致が重要であると主張します。そして20世紀には、美術作品は何かの役に立つのではなく自立した存在として、その純粋性が追求されるようになりました。これらの美術の流れは「モダニズム」と呼ばれています。

ポール・セザンヌ「宴の準備」1890年頃

ヴァシリー・カンディンスキー「絵の中の絵」1929年

パブロ・ピカソ「肘かけ椅子に坐る裸婦」1964年

マルセル・デュシャン「L. H. O. O. Q.」1919/64年

アンディ・ウォーホル「版画集『マリリン』より [1]」1967年

中西夏之「コンパクト・オブジェ」1962年

草間彌生「道徳の部屋」1976年

他, 計 作品 39 点, 作家 27 名

第2章 美術のフレームを超えて

1970年代頃まで、美術の純粋性が追求される中で様々な美術運動、イズム(主義)あるいはグループが次々と現れました。しかし80年代以降、美術の領域にとどまらず、改めて現実世界の諸問題、例えば地域や人種、都市や社会といった事柄に注目する作家が増えてきます。その中で作家たちは美術史的な文脈から離れ、美術「運動」や「～イズム」ではなく、それぞれの個人の関心に基づいて制作するようになっていきます。

森村泰昌「肖像(ファン・ゴッホ)」1985年 (今夏ヨコハマトリエンナーレのディレクター)

ゲルハルト・リヒター「抽象絵画(648-1)」1987年 (現代ドイツを代表する画家)

奈良美智「長い長い長い夜」1995年 (独特の子供像などで国内外で評価される)

ヤノベケンジ「アトムカー(黒)」1998年 (チェルノブイリ以降、原発などをテーマに制作)

畠山直哉「ブラスト #5707」1998年 (2001年ヴェネツィア・ビエンナーレ出品)

やなぎみわ「My Grandmothers: YUKA」2000年 (2009年ヴェネツィア・ビエンナーレ出品)

ロレッタ・ラックス「ドロテア」2006年 (現代ドイツを代表する写真家)

塩田千春「トラウマ/日常」2008年 (来年のヴェネツィア・ビエンナーレ日本代表に選出)

他, 計 作品 44 点, 作家 34 名

7 国立国際美術館とは

国立国際美術館は、大阪府大阪市中之島に位置する、国内外の現代美術を扱う美術館です。東京国立近代美術館、国立西洋美術館、京都国立近代美術館に続く4館目の国立美術館として1977年に開館しました。当初は1970年の大阪万博に際して建設された万国博美術館の建物を利用していましたが、2004年、中之島に新築、移転しました。

8 展覧会の見どころ

- (1) 美術の教科書や副読本で紹介されるような作家を多数展示します。学校でも取り上げられる多様な美術作品に直接出会える展覧会です。
- (2) 既存の美術の概念に囚われず、常識に囚われない美術作品の数々を展示します。これも美術?と驚くような、発見と楽しみに満ちた展覧会です。
- (3) 第1部では美術史に残る20世紀の著名作家を多数紹介します。大阪の国立国際美術館が誇る国内外の名品から選りすぐった、関東の美術ファン必見の展覧会です。
- (4) 第2部では、ヨコハマトリエンナーレ2014でアーティスティック・ディレクターを務める森村泰昌、来年の第56回ヴェネツィア・ビエンナーレの日本代表に選出された塩田千春

など、現在第一線で活躍する、国際的に評価される日本の現代作家を多数紹介します。
今が旬の新しい作家たちをご覧いただける展覧会です。

- (5) 「現代美術はわからない」と感じるひとたちが、現代美術に接する入口となるような展覧会です。セザンヌ、ピカソらを導入とし、20世紀以降、次々と生まれてきた新しい表現を追いかけていく、誰でも楽しめる展覧会です。

8 イベント

(1) オープニングセレモニー

日時：8月8日(金) 午後2時～

会場：2階企画展示室入口

内容：展覧会開幕を記念し、テープカット及び内覧会を行います。

応募方法：往復はがき、または来館による申込制(住所、氏名、電話番号を明記。)抽選で100名様にオープニングセレモニー及び内覧会に参加していただきます。さらに当選者の中から2名様にテープカットに参加していただきます(図録プレゼント。)

応募締切：7月31日(木)

(2) 美術講演会「現代美術は何を目指しているか」

日時：8月9日(土) 午後2時～ 講師：山梨俊夫(国立国際美術館館長)

会場：地階講堂

定員：250名(参加無料)

(3) 子どものためのオープンワークショップ 2014 夏

日時：8月9日(土)、8月10日(日)

各日とも午前10時～12時、午後1時30分～3時30分

会場：地階講座室

定員：無し(当日受付にて申し込み)

対象：幼児から小学生が対象ですが、どなたでも自由に参加できます(就学前の児童は保護者の方と一緒にご参加ください)。

※ 本事業は、茨城大学教育学部との連携事業です。

(4) 学芸員によるギャラリートーク

日時：8月16日(土)、9月6日(土) 各日とも午後2時～

会場：2階企画展示室

定員：無し(要企画展チケット)

(5) ミュージアムシアター

日時：8月23日(土) 「トム・ソーヤーの冒険」(上映作品)

9月14日(日) 「赤毛のアン」(上映作品)

各日とも午前10時30分～

会場：地階講堂

定員：250名(参加無料)

(6) アーティストトーク

日時：8月24日(日) 午後2時～ 講師：やなぎみわ

講師紹介：1967年神戸出身。京都市立芸術大学大学院修了。CGや特殊メイクを用いて女性などをモチーフとした写真、映像作品を制作。2009年ヴェネツィア・ビエンナーレ出品など国内外で評価され、近年は演劇などに活動を広げている。

日時：8月30日(土) 午後2時～ 講師：畠山直哉

講師紹介：1958年陸前高田出身。筑波大学大学院修了。石灰石鉱山やセメント工場に取材した写真作品で注目を集める。1997年木村伊兵衛写真賞、2001年ヴェネツィア・ビエンナーレ出品。2011年には東京都写真美術館で個展開催。2012年芸術選奨文部科学大臣賞

会場：2階企画展示室、他

定員：無し(要企画展チケット)

【広報用画像】 茨城県近代美術館企画展 美術の冒険 国立国際美術館コレクション展

下記の広報用画像を用意しています。

■こちらに掲載された作品は、本展覧会の広報目的の場合にのみ転載可能です。

■画像には、作家名・題名・制作年を必ず入れてください。

■読者プレゼントとして招待券が必要な場合には、必要枚数を美術館までご連絡ください。



ポール・セザンヌ「宴の準備」1890年頃



ヴァシリー・カンディンスキー「絵の中の絵」1929年



中西夏之「コンパクト・オブジェ」1962年



草間彌生「道徳の部屋」1976年



森村泰昌「肖像 (ファン・ゴッホ)」1985年



島山直哉「ブラスト #5707」1998年



やなぎみわ「My Grandmothers : YUKA」2000年